植野会長最終講義＆記念パーティ

植野妙実子先生が古稀を迎えられ、1月25日に後楽園キャンパスにて、最終講義と記念パーティが行われました。たくさんの女性白門会の皆様にご出席いただきました。

先生は、理工学部専任講師に就任された1982年より退職されるまで、中央大学の教育と大学運営にご尽力されました。専門はフランス憲法で、フランスで在外研究をされ、2006年にはエックス・マルセイユ第三大学より法学博士の学位を授与されました。

最終講義では、先生の研究に大きな影響をもたらしたF・ドレフュス先生、L・ファブルー先生、T・ルノー先生の紹介に始まり、先生の研究の足跡が披露されました。先生の主たる研究テーマである「フランスにおける憲法裁判の進展」については、1958年憲法で登場した憲法院が、70年代に入り法律の合憲性審査を積極的に行うようになり、2008年憲法改正で事後審査も引き受け、人権保障機関として大きな役割を担うようになったとお話がありました。

女性白門会入会のご案内

下記担当者(幹事長)まで、電話かFAXでお問い合せの上、またはホームページ上から入会申込書をダウンロードして、お申し込みください。

編集工房 球
針谷順子
TEL／FAX　03-3205-6315
＊FAX番号が変わりました。

◆年会費　4000円

記念パーティには、女性白門会の皆様をはじめ、中央大学の関係者、先生と関りの深い研究者や教え子の皆様など、多くの方々が参集されました。福原紀彦学長のご挨拶にはじまり、当会からは宇田川濱江先生が乾杯のご挨拶、中島康予先生が締めのご挨拶をされました。植野先生のお人柄を反映する、華やかで和やかなパーティでした。

（藤野美都子）

ビストロ備前

JR御茶ノ水駅「聖橋口」　徒歩30秒
東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅「B1出口」
サンクレール商店街直結
東京メトロ丸の内線 御茶ノ水駅　徒歩３分

中央大学女性白門会ニューズレター　2019年初夏号(2019年6月26日発行)

女性白門会

さあ　総会に集いましょう！

早くも6月となりました。今年のバラは激しい雨に打たれたりして、綺麗に咲くことなく、季節を終えようとしています。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

昨年の50周年の総会・懇親会の後、女性白門会では、このニュースにあるよう様々なイベントを行ってきました。また、私の最終講義に駆けつけていただいた方もいらして、厚くお礼申し上げます。本年5月には協議員会が開催され、不肖私が、20名いる学員会副会長の1人として選出されました。これまで副会長としてご活躍されました、北村敬子会員にはお礼申し上げます。

さて元法務大臣である千葉景子会員が、旭日大綬章を昨年秋に叙勲されました。大変喜ばしく、心よりお祝い申し上げます。

他方で悲しいお知らせもございます。当会において長年にわ　たって活躍された、市橋千鶴子、慶野弘　子両会員が逝去されました。市橋千鶴子会員は学員会顧問もお務めになられました。謹んでご冥福をお祈りしたいと思います。

さて中央大学では、中長期事業計画 Chuo vision 2025に基づき、2019年4月に2つの学部を新設（多摩キャンパスに国際経営学部、市ヶ谷田町キャンパスに国際情報学部）、さらに文京区の茗荷谷に法学部を移転する計画を進めています。実現すれば輝かしい金字塔を打ち立てることができるでしょう。大学のますますの発展を祈り、協力していきたいと思います。

本年度の女性白門会の総会・懇親会を次のように開催いたします。ご参加いただきたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

- ●日時:7月20日（土曜日）3時から総会、4時から懇親会
- ●場所：ビストロ備前2階（裏面に地図）
- ●会費：7000円

今回の懇親会では中央大学古典ギター同好会の演奏を楽しみます。リーダーである中村真由さんを中心とした編成で、クラシックからポピュラーまで演奏してくださるとのことです。お友達もぜひお誘いください。

（会長・支部長　植野妙実子〈中央大学名誉教授〉）

2018年11月勉強会の報告

11月に、渥美雅子会員をお招きして、「55年間の泣き笑い」と題する講演会を開催しました。現在、千葉市に事務所を構えておられる渥美弁護士は、千葉県の女性弁護士第一号。離婚やDV、相続など家庭内の問題を得意とし、依頼者の心に寄り添いながら問題解決に取り組んでおられます。

前半では、渥美会員が、弁護士を志すきっかけとなったアナウンサー試験不合格のエピソード、40cmに積み上げた本を40日で読むという驚きの試験勉強法、初めて勤務した事務所で受けたセクハラ話、そして事務所を構えてから現在までに扱われてきたいくつもの事件の中から、「産婦人科医院における乱診乱療」、「ハイリスク熟年結婚の顛末」、「優しい夫の介護殺人」の3つをドラマティックに語っていただきました。

後半は、弁護士業の傍、「渥美右桜左桜」の芸名で講談師として精力的に活動をしておられるもう一つの姿をご披露いただきました。「はり扇」片手に講じていただいたのは、創作講談「江戸のシェルター・東慶寺」。妻の側から離婚することが難しかった時代、鎌倉松岡東慶寺に駆け込めば離婚できると言われ、江戸時代を通じて約2000人の女たちが夫との縁切りを果たしたと言われています。いくつもの声色を使い分ける生き生きとした語り口は、聞き手を一瞬にして物語の世界に惹き込みます。涙あり笑いありの3時間でした。　（小川有希子）

第24回　ウイングの会報告

2018年12月1日(土)、中央大学多摩キャンパス3号館で女子学生支援のためのウイングの会を開催した。第一部においては、元JALキャビンアテンダント、現在山野美容芸術短期大学教員の河崎峰子先生をお招きして、女子学生の面接の際に気をつけるべき事柄、振る舞い、身だしなみ、化粧のあり方などをお話しいただいた。第二部においては内定の決まった学生たちに登壇してもらって、体験談を語っていただいた。70名余の学生たちが、熱心に聞き入り、また質問も多く出て、熱気のこもった会となった。また、その様子は『Hakumon Chuo 春号』に掲載された。就職活動の時期など不透明になることが多く、学生たちの不安も増してきている。今年もそうした学生たちの不安を解消し、手助けとなるよう、企画を考えていきたいと思う。　（植野妙実子）

新春歌舞伎鑑賞会／新年会報告

毎年恒例の新春歌舞伎鑑賞会は、新春1月12日（土）、次ページ集合写真のように多くの会員の皆様にご参加いただき催されました。

「姫路城音菊礎石（ひめじじょうおとにきくそのいしずえ）」は、菊五郎の目指す古典の復活の演目で、初春にふさわしく美しい衣装や、舞台装置、菊五郎の貫禄、菊五郎の艶やかさを堪能しました。

お約束の手ぬぐいも何人かの会員の方がゲットし、リーズナブルなのに良い席を確保できていることを改めて実感しました。

楽しい観劇後は、舞台を新宿樓外樓に移し、中華料理に舌鼓を打ちました。

こちらには植野会長も駆けつけ、会員の皆さんおひとりおひとりからご挨拶をいただいて、和やかな時間を過ごしました。

（針谷順子）

国立劇場にて

福島第一原発事故から8年　福島の今

あれから8年、あんなにショッキングな出来事にもかかわらず記憶が遠くなってきていた。当時現場にいた藤野美都子会員に、大学附属病院の放射線災害医療の混乱ぶりを臨場感をもって直接聞くことができ、再び考えなければならない、忘れてはいけないと深く思えた充実した時間でした。

国や東電は想定外の事故に対する準備が欠如していて、全ての対応が後手にまわったそうです。

パニックを避けるため国からの情報提供がほとんどなく、経験もない中、藤野先生が属する福島県立医科大学附属病院は災害医療の拠点となり、放射線を浴びた患者を受け入れることになったとのこと。現場では一時動揺が走り大混乱となったが、被ばく医療では最先端の長崎大学チームが事故後間を置かずに医大で講演を行い、崩壊寸前の大学の士気が復活したという話や、先生自身が放射線量を図る機具を持ち歩いている話は印象に残りました。

福島の今について、数多くの原発事故をめぐる裁判が続き、震災関連死が増え続けていること、避難者の健康悪化、農林水産物の直接被害・風評被害、工業の減産、打撃を受けた観光、放射性廃棄物の貯蔵施設の課題など、問題は山積みであることが紹介されました。原発事故が起きた場合の影響は計り知れないものがあります。

第5次エネルギー基本計画でも原子力は電源構成比率で22％とされているとのこと、我々一人一人が原子力に頼らないエネルギーを考えていかなければならないと、福島は他人ごとではないということを強く感じた学習会でした。

（金澤恭子）